



三田市 地域公共交通網 形成計画

平成31年3月 三田市

SDGs と本計画 ～誰一人として取り残さないために～

SDGs(エスディーゼーズ:Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標)とは、世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した 17 の目標と 169 のターゲットです。

貧困問題をはじめ、気候変動や生物多様性、エネルギーなど、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。

幅広い分野にまたがるまちづくりへの貢献に向けた私たち地方公共団体においても、多様な主体とのパートナーシップを通じ、知恵とイノベーションを活かした次世代につなぐ SDGs 達成の取り組みが期待されています。



本計画と特に関わりが深い目標は、次の 8 つです。



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

8 働きがいも
経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。

9 質の高いインフラ
構築
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。



10 人や国の不平等
をなくす
各国内及び各国間の不平等を是正する。

11 持続可能な
都市及び人間
居住
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

13 気候変動に
適応する
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

17 パートナーシップ
で目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

はじめに

三田市は平成 30 年 7 月、市制施行から 60 周年の節目を迎えました。長らく本市は、北摂三田ニュータウンの開発や JR 福知山線の複線電化に代表される社会資本の充実を通して「10 年連続人口増加率日本一」に象徴される大きな成長を遂げて来ましたが、近年は少子化と高齢化の急速な進行をともなう人口減少局面に転じつつあります。

そこで本市では、市制 60 周年を期にまちづくりの方向性を「成長から成熟」へと本格に転換をはかり、「地域の創生」、「まちの再生」、「人と人との共生」を柱に掲げつつ「日本一住みたいまち」の実現にむけた取り組みを進めています。

私たちの移動を担う交通は、まちの骨格に相当するとともに、人や地域をつなぐ循環器の役割を担います。だれもが便利で移動しやすい交通手段の確保は、市民生活の質を向上させるとともに、人と環境にやさしい魅力あるまちづくりの礎となり、既成市街地やニュータウン、農村地域など本市の特色ある地域の賑わいや潤いの創出にもつながります。

一方で既存の公共交通においては、通勤通学輸送の急激な減少や、運輸の担い手不足などにより現状の維持が困難に直面しつつあります。また地域社会においては、高齢化の進展により自家用車を気軽に利用できない人々が増加しています。そこで新たな地域コミュニティ交通の導入や、需要動向を踏まえた公共交通の再編など、持続可能性を視野に入れた地域公共交通ネットワークの再構築が求められています。

このような状況のもと本計画の策定に際しては「誰一人取り残さない」という SDGs の理念を念頭に置きつつ、「人がつながる みんなで育てる 明日の公共交通」を基本理念としました。本計画は、2024 年までの向こう 6 年間を計画期間とする本市地域公共交通のマスタープランです。計画の推進に際しては、交通事業者、行政はもちろん市民の皆様とも情報と目標を共有しながら、相互の議論と役割分担を通じて明日の地域公共交通の「共創」に努めて参ります。そして更なる未来志向にも努め、急速な進歩を遂げつつある自動運転をはじめとする先端技術の応用も視野に入れていきたいと考えています。

最後になりましたが、本計画の策定にあたってワークショップやパブリックコメントを通じて貴重なご意見をいただきました地域住民の皆様、多大なご支援とご協力を賜りました三田市地域公共交通活性化協議会の委員の皆様をはじめとする関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成 31 年 3 月

三田市長 森 哲男



— 目 次 —

I 計画の概要	1
1. 計画策定の目的	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画の対象	3
4. 計画の区域	3
5. 計画の期間	3
II 公共交通の現状と課題	4
1. 三田市の概況	4
(1) 位置・地勢	4
(2) 人口	5
① 人口と高齢化率の推移	5
② 地域別人口	6
③ 地区別高齢化率の推移	7
(3) 施設立地状況	8
2. 三田市の公共交通を取りまく現状	9
2.1 鉄道・バス・タクシーの現状	9
(1) 現在の公共交通網	9
(2) 鉄道・バスによるカバー状況	10
(3) 公共交通の利用状況	12
① 鉄道乗車人数の推移	12
② 路線バス乗車人数の推移	14
③ タクシー乗車人数の推移	15
(4) 公共交通に対する行政の支援状況	16
① 公共交通に対する行政の支出	16
② 鉄道・バスに対する支援	17
③ 高齢者の公共交通利用に対する支援	20
2.2 人の移動状況	23
(1) 各種調査データの概要	23
(2) 居住地区別の主な行き先	25
(3) 利用交通手段	26
(4) 目的別にみた移動の内訳	29
① 通勤目的の移動状況	29
② 通学目的の移動状況	32
③ 高齢者・子育て世代の通院・買い物目的の移動状況	36
④ 移動目的の変化	38

(5) 車を気軽に利用できない人の移動	39
① 車を気軽に利用できない人の割合	39
② 外出率及び平均移動回数	40
③ 運転免許返納者	40
2.3 利用者・事業者の意識	41
(1) バス事業者ヒアリング	41
① 実施概要	41
② ヒアリング結果(主な意見)	41
(2) タクシー事業者ヒアリング	43
① 実施概要	43
② ヒアリング結果(主な意見)	43
3. 公共交通の課題	44
(1) 三田市全域の課題	44
(2) 地域別課題	45
① 既成市街地を含む地域(三田地区・三輪地区)	46
② 農村的地域(広野地区・小野地区・高平地区・藍地区・本庄地区)	49
③ 北摂三田ニュータウン等(フラワータウン地区・ウッディタウン地区 ・カルチャータウン地区・テクノパーク地区)	53
Ⅲ 今後の方向性	56
1. 計画の方向性の考え方	56
2. 上位計画からみる方向性	57
(1) 上位計画等の概要	57
① 第4次三田市総合計画(後期計画)	57
② 三田市の都市計画に関する基本的な方針(都市計画マスタープラン)	59
③ 三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略	61
④ 第3次三田市環境基本計画	61
(2) まちの将来像の実現に向けた公共交通の方向性	62
3. 課題解決に向けた公共交通の方向性	63
4. 本計画が目指す公共交通の姿	64
(1) 基本理念	64
(2) 基本方針	65
(3) 公共交通ネットワークの将来像	67

5. 『暮らしの交通まちづくりワークショップ』の成果	69
(1) 概要	69
(2) 課題と未来像	70
① 三田地区	70
② 三輪地区	71
③ 広野地区	72
④ 小野地区	73
⑤ 高平地区	74
⑥ 藍地区	75
⑦ 本庄地区	76
⑧ フラワータウン地区	77
⑨ ウッディタウン地区	78
⑩ カルチャータウン地区	79
IV 将来像実現に向けた施策・事業	80
1. 基本方針別施策・事業	81
基本方針1 まちづくりと連携した広域交流を支える	
公共交通ネットワークの形成	81
基本方針2 地域特性に応じた日常の暮らしに寄り添う	
公共交通ネットワークの形成	85
基本方針3 誰もが分かりやすく	
利用しやすい公共交通サービスの充実	88
基本方針4 みんなで考えつなげていく体制づくり	94
2. ☆☆重点事業シート	99
V 推進体制	106
1. 体制と役割	106
2. 施策・事業の評価に関する考え方	107
巻末資料	108